

## 令和元年度糸島市協定大学等課題解決型研究事業 実績報告

### 研究タイトル

糸島市J R一貴山駅周辺における快適な環境の形成に関する研究

### 研究者名

九州大学キャンパス計画室・大学院人間環境学府 教授 坂井 猛

### 研究期間

令和元年6月1日 ～令和2年3月31日

### 研究計画の内容

一貴山駅とその周辺は、糸島市の環境を維持するうえで重要な地区であることから、利用者である地域住民、学生、行政等との市民協働ワークショップ等を通じて、一貴山駅で新しく建設するトイレのデザイン・地産材活用法を確立し、駅周辺の環境像を示す。

### 研究成果

研究者自身が顧問を務め、市内に点在する空き家を改修して学生の居住に活用する大学公認サークル「糸島空き家プロジェクト」の学生と住民のワークショップを実施して意見を集約するとともに、成果として新しい駅トイレと周辺環境を提示した。

#### いきさん見守り隊との意見交換

従前トイレの清掃活動や小学生の登下校の安全を見守るためのボランティア団体「いきさん見守り隊」にコンタクトを取り、早朝5時に毎朝行っている駅周辺の清掃に参加し、現地の声を聴取した。

一貴山駅周辺の環境更新は、以前から地域の強い要望だったため、九州大学の若い力と連携して進めて行くことに強い期待を持っておられた。



## 現地調査

調査は3人1班で行い、駅舎とトイレ建設用地の測量等を実施した。現在の駅と周辺の施設の状況、土地の性状を計測した。

建設用地には樹木があり、その再活用を望んだが、伐根から加工までのコストなどを勘案し再利用困難と判断された。測定結果は、ワークショップの提案作成に活用した。



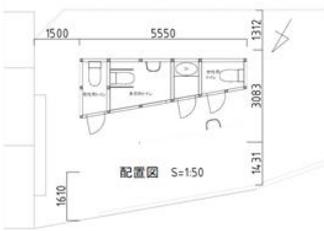
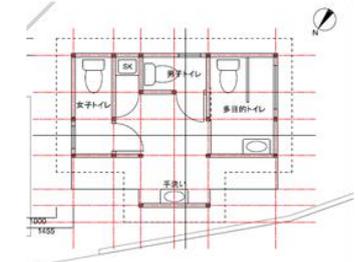
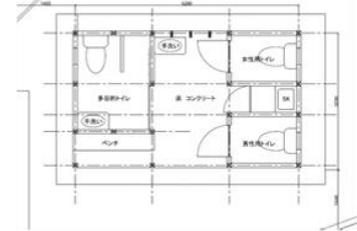
## 7月30日 第1回 協働ワークショップを開催

地元行政区長など約20名が参加した。ワークショップでは、4班に分かれて各班に学生が入りコーディネータを務め、意見交換を行った。

- プライバシーには配慮してほしい。現在の男子便所は仕切りが無く、道路から見える。女性も非常に利用しにくい。
- トイレの外壁は明るい色使いにしてほしい。
- 駅の特長として、春には桜、梅雨には紫陽花などが咲き、トイレ候補地の周辺にも花が植えてある。そうした綺麗な花に囲まれる駅というイメージを持っている。JRも一貴山駅は地域の顔という認識を持っており、みんなで進めてほしい。
- 一貴山と言えば、景色や自然を第一にイメージする。アート活動によく訪れる外国人はきちんと挨拶できるなど、地域の人には外国人に対し良い印象を持っている。一貴山駅の特長としては、階段の上り下りが極めて少ないことだろう。
- 現在のトイレは不衛生であり、どうしても我慢できない場合利用する。新しく建てる時は、綺麗で気軽に利用できる造りにしてほしい。
- 毎日掃除を行うため、水道を外にもつけて、掃除しやすいようにしてほしい。また、掃除道具入れも設けてほしい。

ワークショップにおける意見を集約し、3案に絞った。

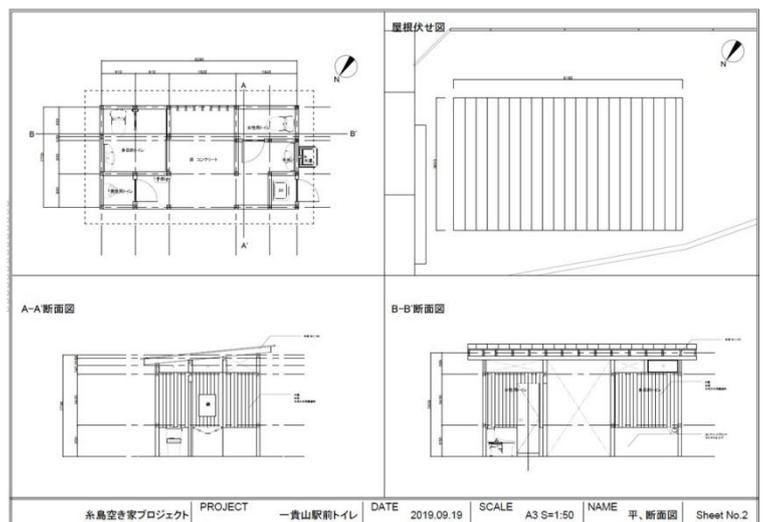


一貴山駅トイレ新設プロジェクト 提案評価表			
	案1	案2	案3
模型写真			
図面			
コンセプト	既存の駅舎に馴染むような既存の屋根と道にそっくりな斜め形状。 一貴山駅のかわいい弟のようなトイレ。	「一貴山」という地名と自然豊かさから連想した、並んだ山型の屋根が可愛い。 駅のホームや電車の中からも目を引くような、一貴山駅のアイコンとなるようなトイレ。	一貴山駅の見通しの良さに馴染むように中央を大きく開く。トイレ越しにも電車の行き来が見える。
延床面積	8.3㎡	12㎡	9㎡
建築面積	20.5㎡	27㎡	16.5㎡

### 10月3日 第2回協働ワークショップを開催

第1回のワークショップを踏まえた3案を、参加者に提示し、いきさん見守り隊と意見交換を行ったうえで、案3をベースに実施することとなった。

その後、研究グループで基本設計図を作成し、設計事務所の協力を得て建設業者とも協議し、工事に着手し、令和2年3月末に完成した。地域住民の想いを集約し、利用しやすい開放性のある木造の駅トイレと駅周辺の新たな環境を実現することができた。



成果を受けた担当部署の意見（企画部 地域振興課）

従前の一貴山駅のトイレは老朽化が進み、衛生環境も万全とはいえず、地域住民が気軽に利用できる状況ではなかった。本研究では、住民の意見交換を重ね、希望を取り入れた案に集約する過程を示したうえで、整備することができた。駅周辺の環境改善と住民の生活利便性の向上に寄与できたと考えている。

